

開催趣旨

このたび、日本体育・スポーツ経営学会第43回大会を中四国地区の岡山市において、2020年3月14日(土)から15日(日)までの2日間で開催させて頂く運びとなりました。今回の会場は、岡山を代表する観光地である日本三大庭園・後樂園の中にある鶴鳴館本館です。おそらく本学会史上初となる観光文化財を会場とした学会大会です。大会運営上、大きな挑戦になりますが、MICE誘致に積極的な岡山市としても、こうした会場での学会開催はほとんど経験がなく、大きな期待を寄せています。実行委員一同、身の引き締まる思いです。

さて、今大会は「地方都市の持続可能性とスポーツ経営」について参加者の皆様と考えたいと思います。

2020年7月24日～9月6日まで開催される東京オリンピック・パラリンピックを直前に控える時期だからこそ、地方都市の未来に目を向けて頂きたいというねらいがあります。

地方都市は少子高齢化に加えて大都市圏への人と金の流出が止まらない状況にあります。また、この現状を打破するための地方創生政策は、国からの補助金によって促進される都市間競争の枠組みで展開されていて、いよいよ地方都市の持続可能性は極めて厳しい状況にあると言わざるを得ません。

一方、ゴールデン・スポーツイヤーズをひとつの契機として推進されている地方都市のスポーツ関連施策は、これまでの地域スポーツ振興を後退させる代わりに、大規模スポーツ施設(スタジアム・アリーナ)の改革的開発やスポーツツーリズムの観光地開発などをエンジンとしたスポーツ産業振興と地域活性化を志向するものになっています。BリーグやTリーグの創設やスポーツイノベーションの創出など、スポーツビジネスの量的・質的拡大もこれらを後押ししています。持続可能性の危機に晒され地方創生競争に巻き込まれた地方都市は、大都市圏に負けじと今後のスポーツ政策に乗らざるを得ない状況です。

しかし、ビッグイベントやプロ・スポーツに関連する人や金の循環をエネルギー源としたスポーツ関連施策が都市間競争的であるために、勝機はより大きなマーケットを抱えられる規模の都市か、あるいは挑戦的・先進的な政策に着手できる都市にしかないのかもしれませんが。また、ビッグイベントを契機とした施策の効果は持続的ではないかもしれないし、スポーツビジネスの成否に依存した政策は安定的ではないでしょう。

では、地方都市のスポーツ関連施策はどうあればいいのでしょうか。都市におけるスポーツ経営の主体は多様ですが、都市の持続可能性を確保するという理念を共有するとき、各主体のスポーツ経営やその連動・連携・協働はどのようにあればいいのでしょうか。本大会では、シンポジウムにおいて、スポーツ以外の領域のマネジメント実践と理論から地方都市の持続可能性に寄与するスポーツ経営のあり方を考えます。そして、そこでの学びをベースにして公募型のテーマ指定プレゼン&ワークショップにおいて、このテーマについて参加者とともに議論したいと思います。

なお、懇親会を含む大会全体は、一貫して岡山市という地方都市のオンリーワンな魅力を伝えるものにデザインしています。また、大会開催に当たっては、地元岡山のスポーツを支援している多くの団体・組織の協力を得ることで、学会大会の開催を岡山のスポーツまちづくりの契機にもしたいと思います。

最後になりますが、「また岡山にきたい!」と思って頂ける様、実行委員・スタッフ一同、出来る限りの工夫とおもてなしを致します。多くの皆様にとって実りある大会となりますことを心より祈念申し上げます。

日本体育・スポーツ経営学会第43回大会実行委員会
実行委員長 岡山大学 高岡 敦史



大会会場となる岡山後樂園から望む、懇親会会場の岡山城天守閣